

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開実用新案公報(U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平5-88296

(43)公開日 平成5年(1993)12月3日

(51)Int.Cl. <sup>5</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
C 1 2 M 1/00	A			
C 0 7 K 3/14		7731-4H		

審査請求 未請求 請求項の数 2(全 2 頁)

(21)出願番号 実願平4-35644

(22)出願日 平成4年(1992)4月28日

(71)出願人 000006138

明治乳業株式会社  
東京都中央区京橋2丁目3番6号

(72)考案者 大山 隆

神奈川県小田原市成田540番地 明治乳業  
ヘルスサイエンス研究所内

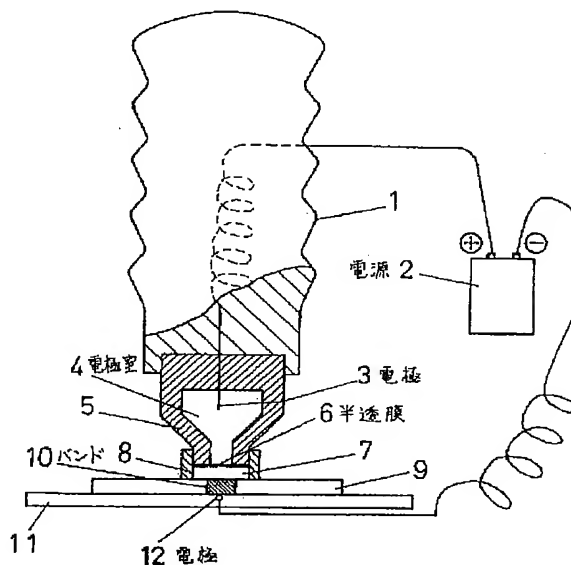
(74)代理人 弁理士 鈴木 正次

(54)【考案の名称】 電気泳動ゲルからの核酸若しくは蛋白質の回収装置

(57)【要約】

【目的】 この考案は、電気泳動ゲルから半透膜を介し、核酸若しくは蛋白質を回収することを目的としたものである。

【構成】 ゲルからの核酸或いは蛋白質回収装置において、電気泳動用緩衝液を収容する室と、該室に配設された電極と、該室の開口部を遮断する膜或いは、該室の内部を電極室と回収室とに二分する膜とで一体に構成され、前記膜は電気泳動用緩衝液は透過可能であるが、核酸若しくは蛋白質が透過できない材質で作られている電気泳動ゲルからの核酸若しくは蛋白質の回収装置。



1

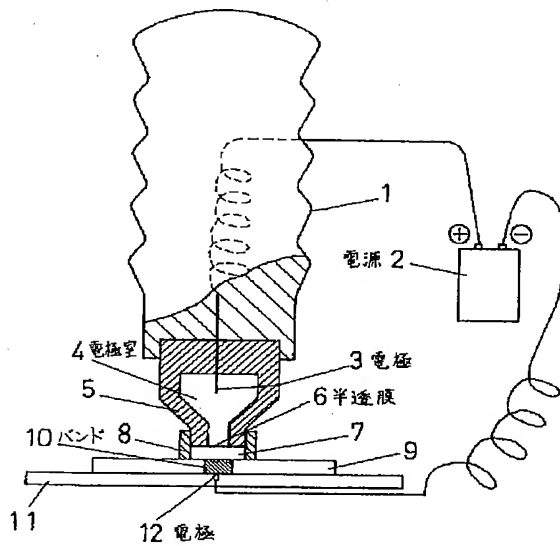
## 【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 ゲルからの核酸或いは蛋白質回収装置において、電気泳動用緩衝液を収容する室と、該室に配設された電極と、該室の開口部を遮断する膜或いは該室の内部を電極室と回収室とに二分する膜とで一体に構成され、前記膜は電気泳動用緩衝液は透過可能であるが、核酸若しくは蛋白質が透過できない材質で作られていることを特徴とする電気泳動ゲルからの核酸若しくは蛋白質の回収装置。

【請求項2】 電気泳動用緩衝液は透過可能であるが核酸若しくは蛋白質が透過できない材質が半透膜である請求項1記載の電気泳動ゲルからの核酸若しくは蛋白質回収装置。

\*

【図1】



2

## \*【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案の実施装置の一部を断面した正面図。

【図2】 同じく他の実施装置の一部を断面し、一部を省略した正面図。

## 【符号の説明】

- 3、12 電極
- 4 電極室
- 5 中空筒体
- 6 半透膜
- 7 回収室
- 9 ゲル
- 10 バンド

【図2】

